

2018年3月期第1四半期 決算説明資料

2017年8月8日（火）

株式会社 **力ネカ**

目 次

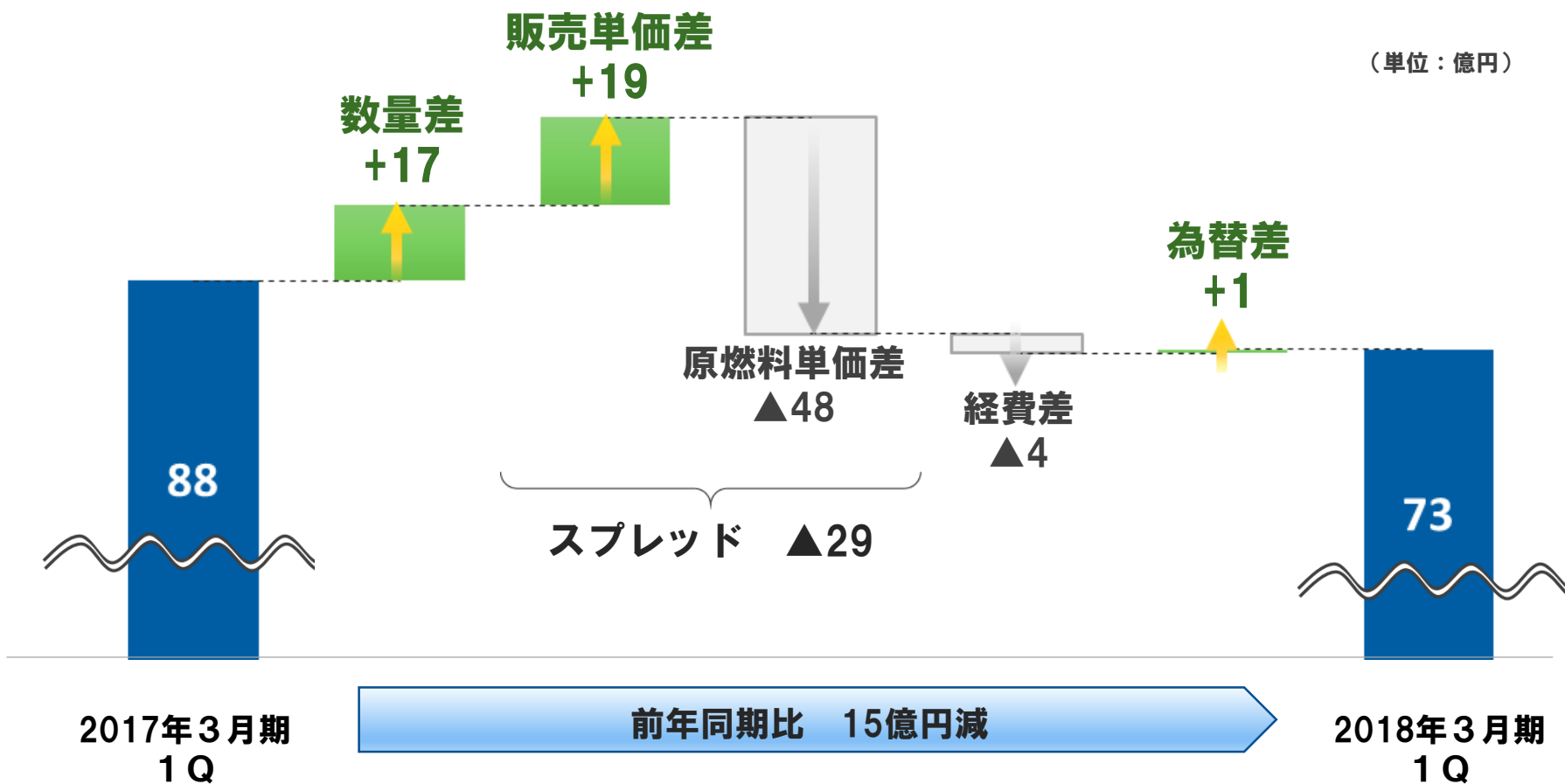
業績概要	1
営業利益増減要因	2
四半期別 売上高・営業利益	3
セグメント別 売上高・営業利益	4
事業概況	5
貸借対照表	9
キャッシュ・フロー計算書	10
業績予想	11
(ご参考)	12

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

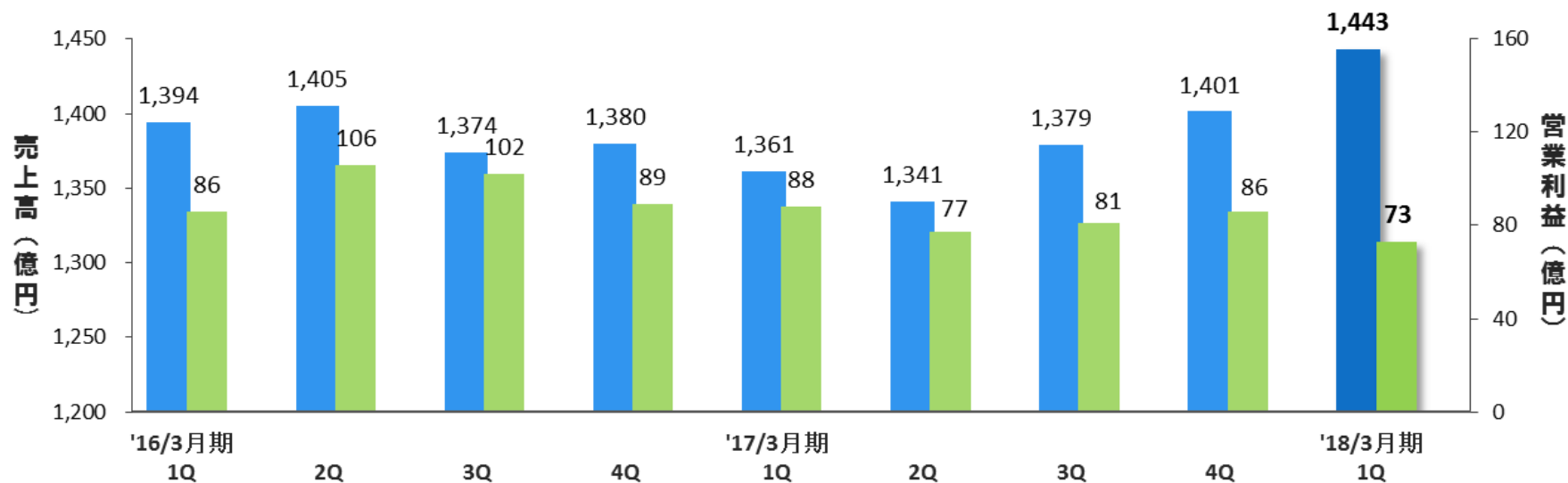
(単位：億円)

	2017年3月期 1Q	2018年3月期 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,361	1,443	82	6.1%
営業利益	88	73	△15	△17.4%
経常利益	71	72	0	0.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	46	48	2	3.5%
1株当たり四半期純利益	13.87円	14.43円		

- 売上高は、引き続き海外市場を中心に拡販が進み、過去最高を更新
- 経常利益・四半期純利益は前年実績を上回ったが、営業利益は一部原料の価格急騰が大きく影響し、前年実績を下回った



四半期別 売上高・営業利益



(単位：億円)	2016年3月期				2017年3月期				2018年3月期
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q
売上高	1,394	1,405	1,374	1,380	1,361	1,341	1,379	1,401	1,443
営業利益	86	106	102	89	88	77	81	86	73

- 当年1Qの売上高は、前年2Qを底に順調に拡大しており、過去最高を更新
- 一方、営業利益は、一部原料の価格急騰により一時的に採算が悪化

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2017年3月期 1Q	2018年3月期 1Q	増減		2017年3月期 1Q	2018年3月期 1Q	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	50,090	57,034	6,943	13.9%	5,674	5,747	73	1.3%
Quality of Life SU	34,362	35,618	1,256	3.7%	4,513	2,839	△1,673	△37.1%
Health Care SU	11,885	11,209	△675	△5.7%	2,790	2,364	△425	△15.3%
Nutrition SU	39,477	40,051	574	1.5%	956	1,220	264	27.6%
その他	242	387	145	59.8%	104	244	139	132.9%
調整額	-	-	-	-	△ 5,260	△ 5,164	95	-
計	136,058	144,302	8,244	6.1%	8,779	7,252	△1,527	△17.4%

※SU : Solutions Unit

- Materialは販売拡大により、大幅に増収ながら原料価格急騰の影響を強く受け、計画より大幅に利益を落とした
- Quality of Lifeは前年好調であったPerformance FibersとFoam & Residential Techsが、原料価格高騰の影響を受けたこと及び新工場の経費負担により減益となった

売上高

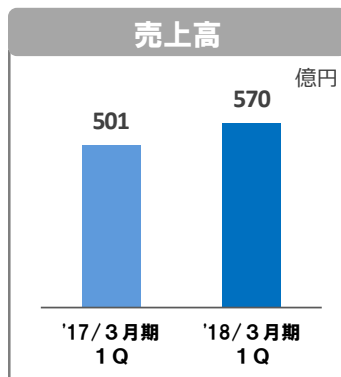
570億円 (対前年同期 13.9%増)

売上高構成比

39.5%

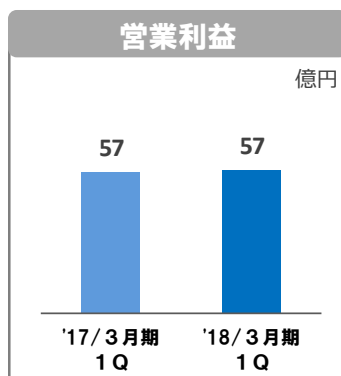
営業利益

57億円 (対前年同期 1.3%増)



Performance Polymers

- ・ モディファイヤーは、旺盛な需要が続くなか、マレーシア新設備が本年3月に稼働し能力不足が解消され販売数量が大きく増加
- ・ 新設備の早期フル稼働に備えて大量に調達した主要原料ブタジエン価格の急変（急騰・急落）により、当四半期は大幅な採算悪化となった
- ・ 第2四半期以降は、この一時的なブタジエンの影響が解消されるとともに、生産能力増強により拡販が進むことから一層の収益拡大がはかれる見通し
- ・ 変成シリコンポリマーは、グローバルに用途拡大が進み着実に販売数量が増加
- ・ マレーシア新生産設備は本年7月に計画通り稼働し、販売を開始している



Vinyls and Chlor-Alkali

- ・ 一般用塩化ビニル樹脂およびか性ソーダのアジア市場での販売が好調に推移
- ・ 米国市場を中心として塩素化塩ビなど塩ビ系特殊樹脂の販売が順調に拡大

売上高

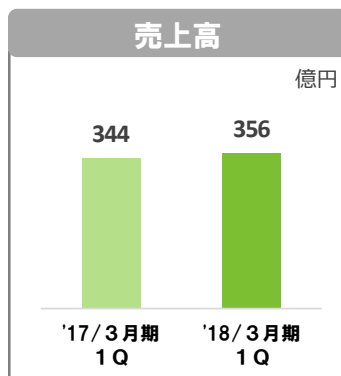
356億円 (対前年同期 3.7%増)

売上高構成比

24.7%

営業利益

28億円 (対前年同期 37.1%減)

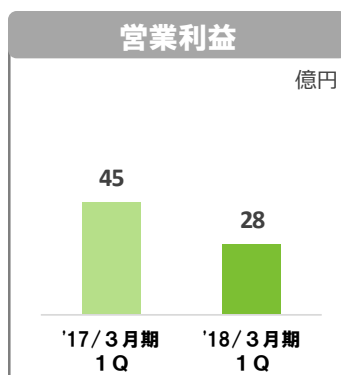


Foam & Residential Techs

- ・ 販売数量が増加したが、スチレンモノマーなどの主要原料価格の上昇の影響を受け減益
- ・ 需要期に入る第2四半期は販売価格の修正と拡販が進む見通し

Performance Fibers

- ・ パイル市場の旺盛な需要が戻り、また頭髮市場は前年度第3・4四半期を底に需要が回復
- ・ 新設のマレーシア工場の競争力の十分な活用が出来ず、原料価格の上昇も加わり採算は悪化
- ・ 第2四半期以降は、需要回復とマレーシア生産品の本格寄与により収益が改善する見通し



E&I Technology

- ・ 需要は順調に拡大しており、ピクシオなど高機能品の販売数量が増加し、また遅れていた超耐熱ポリイミドフィルムの生産体制整備が進み、採算が改善
- ・ 第2四半期以降は引き合いが旺盛な大手スマートフォンメーカーの新規モデルなどの大型需要が加わり、能力増強した設備を戦力化させ採算を向上させる

PV & Energy management

- ・ 昨年上市した高効率瓦一体型太陽電池の大手ハウスメーカー向け出荷が順調に拡大
- ・ 今後は、太陽電池事業を軸に、住宅のネット・ゼロ・エネルギーハウス (ZEH) に貢献するエネルギーソリューションの提供に注力していく

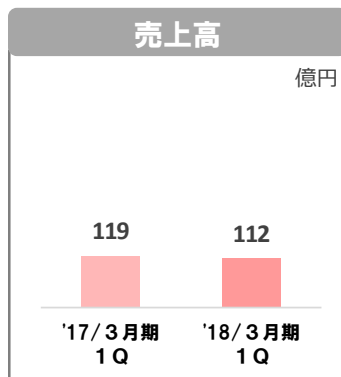
売上高

112億円 (対前年同期 5.7%減)

売上高構成比 7.8%

営業利益

24億円 (対前年同期 15.3%減)

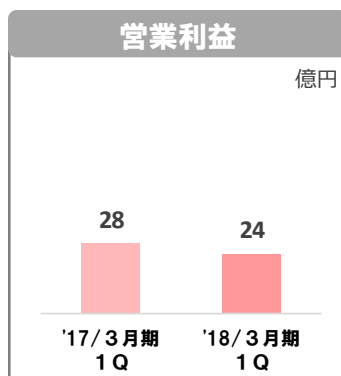


Medical Devices

- ・ 国内外で販売が堅調に推移
- ・ 第2四半期以降はインターベンション事業で他社との共同事業をさらに進展させ、また米国での販売体制強化により血液浄化事業を一層拡大させる

Pharma

- ・ APIやバイオリジクス事業が順調に推移したが、中間体は販売が集中した前年度第1四半期に比べ当四半期は販売数量が減少



売上高

401億円 (対前年同期 1.5%増)

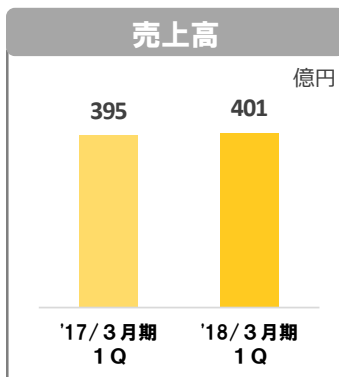
売上高構成比

27.8%

営業利益

12億円 (対前年同期 27.6%増)

売上高



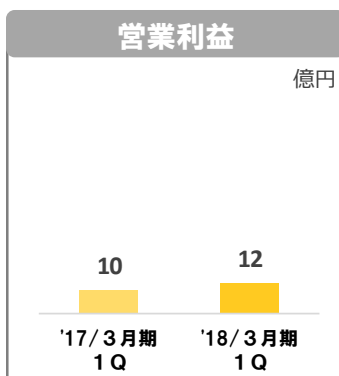
Foods & Agris

- ・ 新規の食品素材を武器にした大手製パン、コンビニエンスストアや食品メーカーへの提案型営業が実を結び販売が拡大

Supplemental Nutrition

- ・ 還元型コエンザイムQ10の認知度向上とともに、生産性改善により収益性が向上
- ・ 第2四半期以降は米国を中心に販売の増加が見込まれる

営業利益



(単位：億円)

	2017年3月末	2017年6月末	増減
資産の部			
流動資産	2,804	2,803	△ 2
固定資産 等	3,125	3,190	66
資産合計	5,929	5,993	64
負債の部			
有利子負債	1,101	1,092	△ 9
その他	1,613	1,626	14
負債合計	2,713	2,719	5
純資産の部			
自己資本	3,051	3,108	56
非支配株主持分 他	164	166	2
純資産合計	3,216	3,274	59
負債、純資産 合計	5,929	5,993	64

- 設備投資による有形固定資産の増加や、投資有価証券の増加により総資産が増加

(単位：億円)

	2017年3月期 1Q	2018年3月期 1Q
営業活動によるキャッシュ・フロー	167	88
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 111	△ 98
フリー・キャッシュ・フロー	56	△ 10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 56	△ 57
現金及び現金同等物の増減 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 9	△ 66
現金及び現金同等物の四半期末残高	423	344

- 営業CFは、売上拡大などにより運転資金が増加したが、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により88億円の収入
- 投資CFは、積極的な設備投資の継続により98億円の支出

- 今後の世界経済は、主要各国の政治動向や新興国の景気動向、地政学的リスクなど不透明な要素があるものの、引き続き緩やかな回復が見込まれます
- 第2四半期以降は、E&I Technologyにおける大手スマートフォンメーカーの新規モデル向けの販売、Performance Fibersにおけるアジア・アフリカ市場向けの販売が増加する見通し。また、原料価格急騰の影響が解消されるとともに、旺盛な需要に対し継続的に実施しているモディファイヤー、変成シリコンポリマーなどの供給能力の増強を武器に拡販を進める計画
- 以上のことから、連結業績予想に変更はありません

<参考>2017年5月12日公表の2018年3月期連結業績予想

(単位：億円)

	2017年3月期 通期 (実績)	2018年3月期 通期 (予想)	増減
売上高	5,482	6,100	618 (11.3%)
営業利益	332	430	98 (29.7%)
経常利益	274	390	116 (42.2%)
親会社株主に帰属する 当期純利益	205	230	25 (12.3%)

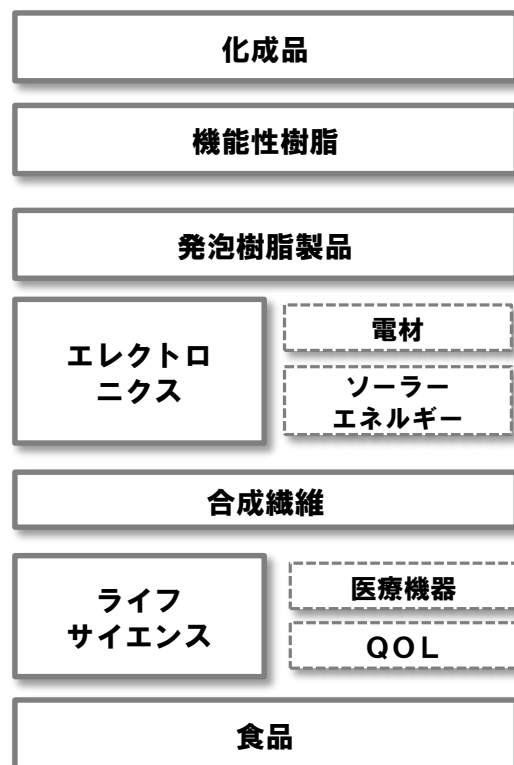
【2018年3月期 前提条件】 為替レート：110円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格：42,000円/KL

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

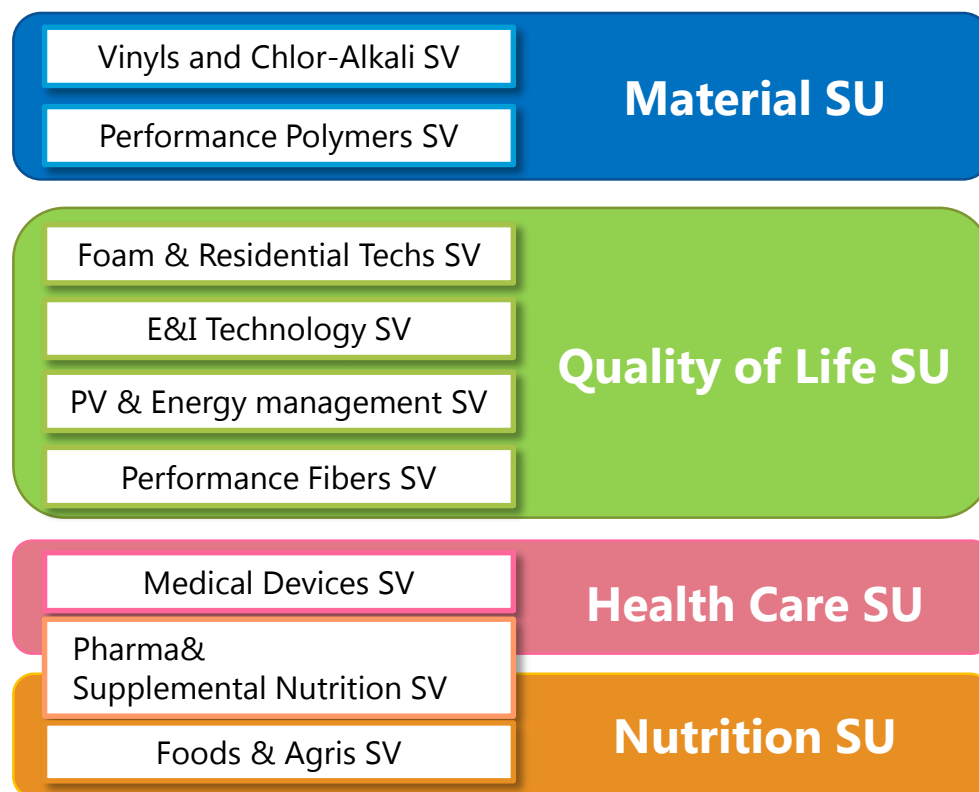
(ご参考) 開示区分の変更について

- 2018年3月期第1四半期より、開示区分を下記のとおり変更しております

旧報告セグメント



新報告セグメント [2018年3月期以降]



※SU・・・ Solutions Unit (セグメント)

※SV・・・ Solutions Vehicle (事業単位)

＜IRに関するお問い合わせ＞

株式会社 **カネカ** IR・広報部

TEL : 03-5574-8090